



小鯖小学校だより

10月号

令和元年10月 1日
山口市立小鯖小学校

【めざす児童像】

☺: 思いやりのある子

☺: さわやか元気な子

☺: ばっちり学ぶ子



全国学力・学習状況調査の結果から…

校長 高田 修司

全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年4月に実施されている全国学力・学習状況調査（国語・算数・質問紙）の結果が公表されました。

教科のテストは、昨年度までA問題（基礎的な問題）とB問題（活用力・表現力を確かめる問題）に分けて実施されていましたが、今年度から統合して実施されました。

質問紙については例年どおり、学習をめぐる取組状況や生活状況、物事に対する考え方等に関する質問に対して、当てはまるかどうかを4段階で答えるものでした。

個人の結果については、9月当初に個人票を配布して各家庭にお知らせしていますが、本校6年生の傾向を、全国や山口県の平均と比較、分析すると以下のとおりでした。

<国語> …○全国の平均正答率を少し上回っている。

○目的や意図に応じ、自分の考えを理由と共にまとめて書くことができる児童が多い。

○学年で習う漢字を文の中で正しく使うことができる児童が多い。

▼情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の工夫が苦手な児童が多い。



<算数> …▼全国の平均正答率を少し下回っている。

○グラフから資料の特徴や傾向を読み取る事ができる児童が多い。

▼計算の仕方や面積の求め方を解釈し、記述することが苦手な児童が多い。

<質問紙>

○国語や算数の勉強が大切だと考えている児童が多い。

○先生が自分のよいところを認めてくれていると感じている児童が多い。

○自己肯定感が高く、難しいことでも失敗を恐れず挑戦しようとする児童が多い。

○地域貢献を考えたり、地域行事へ参加したりする児童が多い。

▼(国・算とも) 解答時間が足りなかったと感じている児童が多い。

▼学校の授業時間以外での読書時間が少ない児童が多い。



全教職員で上記結果の分析、検討会を行い、他学年の児童にもほぼ同様の傾向がみられることから、「文章を書く活動や考えを伝え合う活動を増やす」「アウトプット（条件付き）の習慣化」などを教職員が意識して、そのような場面を増やしていくこととしました。

さらに、学習を支える基盤である「正しい姿勢」と「人の話を聴く」指導についても、これまで以上に大切にしていこう、ということも共通理解をしました。